様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１３８０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2016
課題番号：２５８６２１０６

研究課題名（和文）看護学生の倫理的感受性測定尺度の開発

研究課題名（英文）Development for Ethical Awareness Questioner for nursing student in Japan

研究代表者
村松　妙子（Muramatsu, Taeko）

浜松医科大学・医学部・助教

研究者番号：９０４０２２５５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：文献検討から４７項目の尺度を作成した。探索的因子分析（最尤法+プロマックス回転）を行った。その結果13項目3因子構造の尺度が得られた。第1因子は第一因子は患者の意思尊重(respect for autonomy)と無危害(Non-maleficence: avoiding harm)および善行の原則(Beneficence)の対立に関連した8項目から成り立った。第2因子は公正の原則(Justiceと無危害および善行の原則に関連する3項目で成り立った。第3因子は2項目の守秘義務に関連する項目が含まれた。、これらの因子のクロンバックαは0.77-0.81、尺度全体では0.82であった。

研究成果の概要（英文）：The 47 items of the preliminary were refined first by checking biased response distribution of items.Next, the EFA with maximum-likelihood factor analysis and promax rotation was used.Factor 1 consisted of eight items in conjunction with the ethical conflict that related to the respect for autonomy and Non-maleficence and Beneficence.Factor 2 consisted of three items in conjunction with the ethical principle that related to Justice and Beneficence and Non-maleficence.Factor 3 also consisted of two items in conjunction with the obligation of confidentiality.

研究分野：看護倫理

キーワード：看護倫理

１．研究開始当初の背景

看護は対象者の意志や価値観を尊重し、その人が自分らしく健康的に生活できるようにすることが求められている 1)。それには、対象者の意志や価値観を尊重することが重要となるが、Ｆｒｙらは患者の尊厳や権利をめぐる問題を見過ごすか否かは倫理的感受性(moral sensitivity)に関わっていると述べている 2)。また、その倫理的感受性については、個人の利害に影響を与える状況について倫理的価値を見出す能力が含まれ、個人の言語的・非言語的行為を解釈し、その人が何を必要としているのかを明らかにし、その人に適切な方法で反応することが基本になると定義している。

現在、医療現場においては複雑かつ高度化した医療が展開され、患者からは多角的な要求が高まっている。看護基礎教育を修了した学生は、臨床においてチーム医療の中に組み込まれ、看護の実践を行うことになるが、新卒看護師の技術力の低下や、医療チームや患者、家族に対する基本的態度の未熟さが臨床現場から指摘されている 3)。2002 年に文部科学省から出された「看護教育の在り方に関する検討会報告書」では、看護学生においても、対象者の尊厳と権利を擁護する立場で行動できることが不可欠で、学生自身がその意味に深い関心を持ち、看護職者が対象の権利擁護者として機能することの意義を追求できる教育が必要であると報告され、看護教育における倫理観の育成の重要性が述べられている 4)。しかし、臨床の場での問題や倫理的な問題に対する感受性を高める教育や倫理的な問題に対応する能力を養う教育については体系化されたものはなく、看護実習および看護実践のイメージが乏しい学生にとって、看護実践においてどのような倫理的問題が生じるのか、また、倫理的対応とはどのようなものかなどを具体的に理解することは難しい。またそれ以前に、そこに倫理的問題が生じているということに気付くことすら難しい。

看護師の行動は倫理観や倫理的感受性によって影響を受けると考えらる。看護経験年数の長い看護師は倫理的感受性が高い 5)、受けた教育や体験が影響する 6）と指摘されている。これは、患者の尊厳や権利に対する知識を持つことが倫理的感受性に大きく関わっていることを示している。倫理的な行動の基盤として倫理的感受性について広く関心がもたれ、看護師の倫理的感受性を測定するための測定用具が求められている。先行研究では、1994 年に Luetzen らによりスウェーデンの精神科の看護師を対象に開発された 35 項目からなる Moral Sensitivity Test(MST) 7）がある。そして、これを翻訳し、一部修正したものを看護学生、医学生、臨床看護師に使用した研究がある 8）9)。その後中村らが信頼性、妥当性を検証した道徳的感受性尺度がさまざまな研究で使用されている 10）11)。また、Luetzen らは moral Sensitivity Questionnairen の改訂を重ね、ヘルスケア実践領域での使用に耐えうる moral sensitivity の概念の確立と質問項目の整理を行い Revised Moral Sensitivity Questionnaire (rMSQ)を発表した。前田らがそれを改訂した道徳的感受性質問紙日本語版(J-MSQ)を開発し検証している 12)。しかし看護学生を対象とした倫理的感受性の測定用具はみられず、倫理的感受性は前述したように経験年数や教育、体験によって影響されるため、臨床の看護師を対象とした質問紙では、初学者である看護学生の倫理的感受性を正確に測定することは難しい。看護学生が看護職者として対象者の権利擁護を考え倫理的判断や道徳的推論を行えるようになることが求められているが、そのためには、まず倫理的問題が生じていることに気付く力【倫理的感受性】が重要である。本研究では、看護学生の倫理的感受性を測定する尺度を開発することで、看護倫理教育に対する有効な示唆が得られると考える。

２．研究の目的

本研究では 1）看護学生の倫理的感受性に影響する要因を明らかにする。2）倫理的感受性を測定する尺度の開発と試用を行い妥当性を検証する。

３．研究の方法

看護学生を対象とした倫理的感受性測定尺度を開発する。尺度の開発は、次に示す 3 段階の手続、1）質的帰納的研究の成果を基盤とした質問項目の作成と尺度化 2)質問項目の内容的妥当性の検討と修正 3）１次、2 次調査実施による尺度の信頼性妥当性の検討を経る。

４．研究成果

1）質的帰納的研究の成果を基盤とした質問項目の作成と尺度化

学生が臨床実習で遭遇する倫理的葛藤場面について文献検討を行い、30 項目の質問紙を作成した。プレテストを実施したところ、項目の内容および、回答方法に修正が必要となったため、質問紙の内容を大幅に見直した。看護倫理の専門家および看護実習を担当する大学教員による検討を重ね４７項目４点リッカート式自記式質問紙を作成した。

2)質問項目の内容的妥当性の検討と修正

看護系大学協議会に所属する中部地区の看護系大学に質問紙調査への協力を依頼し、協力が得られた１０大学の学生を対象に質問紙調査を実施した。

計 528 部のアンケートが返送され、使用可能なデータは525部(回収率21.3%)であった。

回答者のほとんどが女性（95.2%）であった。1 年生は（144）人（27.4%）、2 年生 141 人（26.9%）、3 年生 83 人（15.8%）、4 年生 152 人（29%）であった。
学校の種別では国公立大学が 364 人(69.4%)、実習中に倫理的葛藤場面があったと回答した学生は 225 人（42.9%）、看護倫理への関心は、「とてもある」104 人（19.8%）、「少しある」338 人（64.4%）、「あまりない」「全くない」が 80 人（15.3%）であった。医療安全に対する関心は「とてもある」226 人(43%)、「少しある」282 人（53.7%）、「あまりない」「全くない」が 15 人（2.9%）であった。
欠損値は個々の回答の平均値を代入し処理をした。47 項目中 7 項目以上欠損値があった 3 部については分析から除外した。
天井効果－フロア効果の確認後、探索的因子分析（最尤法+プロマックス回転）を行った。その結果 13 項目 3 因子構造の尺度が得られた。
第 1 因子は第一因子は患者の意思尊重(respect for autonomy) と無危害(Non-maleficence: avoiding harm)および善行の原則(Beneficence)の対立に関連した 8 項目から成り立った。
第 2 因子は公正の原則(Justice と無危害および善行の原則に関連する 3 項目で成り立った。第 3 因子は 2 項目の守秘義務に関連する項目が含まれた。信頼性妥当性はクロンバックα係数を算出し、これらの因子のクロンバックαは 0.77-0.81、尺度全体では 0.82 であった。
外部関連妥当性の検討
MST の各主成分との相関では主成分 3「introspection」と第 1 因子「自律尊重と安全」のピアソンの相関係数は 0.098（p＜0.05）、主成分 5「Judgment of the care conflict」と看護学生の倫理的感受性尺度全体で 0.141（P＜0.01）、第 1 因子「自律尊重と安全」0.156(p<0.01)第 2 因子「資源の公正な分配」0.04（ns）、第 3 因子「患者情報保護への配慮」0.091（p＜0.05）、JMSQ の各因子との相関では JMSQ 第 2 因子「Sense of Moral Burden」と看護学生のための倫理的気づき尺度全体で 0.115（p＜0.01）、第 1 因子「自律尊重と安全」0.098（p＜0.05）、第 2 因子「資源の公正な分配」0.05（ns）、第 3 因子「患者情報保護への配慮」0.118（p<0.01）であった。JMSQ 第 3 因子「Moral Responsibility」と看護学生のための倫理的感受性尺度の第 2 因子「資源の公正な分配」の間の相関係数は-0.103（p＜0.05）であり、弱い負の相関がみられた。
基準関連妥当性の検証においては、ＪＭＳＴおよびＪＭＳＱ全体のスコアとの相関関係は示されなかった。しかし、ＭＳＴの主成分「Judgment of the care conflict」、ＪＭＳＱの第 2 因子「Sense of Moral Burden」との間にはＥＡＱ-ＮＳは有意差を示した。これらの因子はＬｉｚｅｎが示した「道徳的感受性」の要素のうち道徳的な「判断 Judgment」や「気づき Sense」を示す。既存の道徳的感受性の尺度とすべての項目で相関を示さなかったことは、ＥＡＱ-ＮＳが「道徳的感受性尺度」とは全く同じものを測定しておらず、「判断」「気づき」の部分を特化して測定している尺度であると言える。

引用文献

1）習田明裕,志自岐康子：看護管理教育カリキュラムをどのように立てるか,看護展望,30（8）,880-885,2005
2）Fry S.T,Johnstone M-J.(片田典子,山本あい子訳)看護実践の倫理,倫理的意思決定のためのガイド,日本看護協会出版会、1998
3）文部科学省高等教育局医学教育課：看護教育の在り方に関する検討会報告書,2002
4）泉川孝子,古田千恵子,他：基礎看護技術演習の役割における学生の倫理的態度の一考察,岐阜医療科学大学紀要,2号,97-105,2008
5）中川典子,小田初美,他：A施設における看護師が体験している倫理的問題に関する実態調査,第 37 回日本看護学会（看護管理）,370-372,2006
6）藤原恭子,佐野恵美香,他：看護倫理に支えられた看護管理に関する研究-臨床看護師の看護倫理への意識,第 37 回日本看護学会（看護管理）,127-129,2006
7）Luetzen K,Nordorin C,Brolin G.Conceptualization and instrumentation of nurses’molal sensitivity in psychiatric practice.International Journal of Methods in Psychatric research 1994;4(4):241-248.
8）石川操,中村美知子,他：臨床実習体験による看護学生の Moral Sensitivity の変化,山梨医科大学紀要、1998,15,42-46
9）中村美知子,石川操,他：看護学生の臨床実習における葛藤場面の認知と対処-医学生との比較-,山梨医科大学雑誌,13（3）,99-105,1998
10）中村美知子,石川操,他：Moral Sensitivity Test（日本語版）の信頼性・妥当性の検討（その 1）山梨医科大学紀要,17,52-57,2000
11）中村美知子,石川操,他：Moral Sensitivity Test（日本語版）の信頼性・妥当性の検討（その 2）,山梨医科大学紀要,18,41-46,2001
12）前田樹海,小西恵美子：改訂道徳的感受性質問紙日本語版（J-MSQ）の開発と検証：第 1 報,日本看護倫理学会誌,4（1）,32-37,2012

５．主な発表論文等
投稿準備中

〔学会発表〕（計 4 件）
1）村松妙子、基礎看護学実習を経験した看護学生の倫理的な気づきや学びの現状、日本看護倫理学会第 7 次大会、2014 年 5 月 25 日ウインクあいち（愛知県名古屋市）
2）村松妙子、看護学生の道徳的感受性は看護経験を重ねることで変化するのか、日本看護倫理学会第 8 次大会、2015 年 6 月 14 日、神戸国際会議場（兵庫県神戸市）
3）村松妙子、看護学生の道徳的感受性は看護経験を重ねることで変化していくのか、第 35 回日本看護科学学会、2015 年 12 月 5 日、広島国際会議場（広島県広島市）
4）村松妙子、道徳的感受性尺度は臨地実習や倫理教育による学生の倫理的感受性の変化を測定しうるか、第 36 回日本看護科学学会、2016 年 12 月 10 日、東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内）

6.研究組織
（1）研究代表者
村松　妙子（Taeko Muramatsu）
浜松医科大学・医学部看護学科・助教
研究者番号　90402255